



食品廃棄 への新しい動き

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

本来は食べることでできたはずの食品が廃棄されることをフードロスといいますが、この心が痛むことが、新型コロナウイルスの影響で起こりました。このフードロスに立ち向かうお話がJタウンネット東京にありましたのでご紹介します。東京都文京区根津で野菜卸売と八百屋を営む、八百屋菜根たんの三浦大輝さんが、フードロスを削減したいという思いで始めた野菜セットの販売は、今回が第2弾でした。千葉県印西市の柴海農園さんや他の農家さんと協力して、こだわり野菜セットをつくり、豊洲市場の通販サイトで売り出したところ、開始約10分で200箱が完売しましたそうです。三浦さんのツイートには、

是非購入したいと思えます」
「買どうぞおー！」拡散させて
いただきます」などと言った

声が全国から寄せられた。三浦さんは、野菜セットのネット通販の可能性に着目している。「この販売をとおして、数多くの人からコメントをいただきました。また北海道の農家さんからはジャガイモ、タマネギの在庫を30トン抱えていると、新たなフードロスの課題も舞い込んでいます。早速、次の野菜セットの企画に挑戦したいと思っています」と、三浦さんは意気込みを語ってくれました。新しい取り組みが始まっています。

給食を自宅へ運ぶ先生

イギリスのプライマリスクールの副校長、パウルスさんは、毎日、約80食のスクールランチをバッグに入れ、身体中にくくりつけて、低所得の家庭に届けている。イギリスでは、低所得の家庭の子どもたちが無料で給食を食べられる、フリー・ミール制度がある。この学校では10人に4人がこの制度を利用しているそうです。ロックダウンの間、親や子どもに取りにきてもらうわけにもいかない。考えた末に

思いついたのが、各家庭に届ける方法だったそう。自分で届けられれば、子どもたちは食事ができる上に、子どもたちの様子を確認することもできる。届けているのは食べ物だけではない。宿題も入っているという。食事はキッチンスタッフが準備し、歩いて届けることができず、距離に住んでいる生徒には、校長先生や他の先生たちが交代で食事を車で届けています。

HUFFPOSTより

編集後記

誰かのために、頑張ってくれる人の気持ち、行動、その反応全部あつたかだなと思います。あつたかいは、どんな時も最も大切なことだと思います。